

～先輩からのお言葉～

四期生 猪俣 明彦 (経済産業省資源エネルギー庁勤務)

第7期生の皆様

御卒業おめでとうございます。

今後はそれぞれ自分が選んだ道を、
より自立して進んでいかれるものと思います。

さて、現在、日本経済は混迷を極めています。

私は経済産業省に勤務していますが、中央省庁に対する批判の渦の中、
まさに政策の現場で働けることはある意味幸せであり、
この時期にこの立場で、一体何を考え何を実行したのかが、
政策そのもの、ひいては実社会そのものに影響していくこととなります。

それは充実感とともに緊張感があります。

それは意志決定を行えると同時に「責任」を伴っているからです。

何もしないことも同様に責任を伴います。

混迷の世の中で何の具体的提言も聞こえてこない現在の日本の経済学界も、
当然に責任を伴っているのです。

御卒業される方々も、

自由な発想を行えても、現実に影響を与えるような意志決定ができる立場でなかった学生から、
社会人として、期限と目標を念頭にしながら現実に影響を与える意志決定を行い責任を持つ者として、
この何十年間を過ごすこととなります。

そして、実社会では本ゼミで過ごした時間が大きな意味を持ってくるでしょう。

学生の時にバーチャルとはいえ、どのような判断に基づき、どのような意志決定を行ってきたか。
皆様の実社会での御活躍を期待しております。

六期生 野田 果生

岩本ゼミ7期生のみなさまへ

7期生のみなさま、ご卒業おめでとうございます。

去年、自分が卒業する立場でこの機関紙を受け取った時から、もう1年近くも経っているなんて信じられないくらい、この1年は早く過ぎました。

この1年の間に私がいつも心の中に置いていた言葉が「泣くものは笑い、笑うものは泣く。同じことのように、どちらが先かで人生は全く違ったものになる」という言葉です。何があっても結局は笑えればいい、というシンプルな点が好きです。照れ隠しの笑いや、ごまかしの笑い、蔑みの笑いではなく、いつも自分の幸せさがにじみ出てくるような、自然な笑い、そんな笑いがでてくるような人に私はなりたいと思っています。

7期生のみなさまは優秀な方たちだと思いますので、きっと将来、色々な方面で立派に活躍されることだと思います。またみなさんにお会い出来る日を楽しみにしています。

六期生 松下 朋弘 (三菱重工業 (株) 勤務)

『岩本ゼミナール機関誌 第6号』によせて

藤嶋さん、そして7期生の皆様、ご卒業おめでとうございます。

去年の今ごろ(1月)は『機関誌』に掲載する論文を書いていたのですが、気が付くと「後輩に送る言葉」を書いているとは…。よく聞く話ですが、社会人になってから、月日の経つのは本当に早いものです。

現在、私は三菱重工業(株)の工作機械事業部にてシステム屋としてネットワーク管理を主にしています。

す。ネットワーク管理という聞こえはいいですが、実際には日夜、構内のコンピュータ・ネットワークや構内電話網の不具合の復旧に駆り出されており、「技術屋」というよりは「電気屋」といった感じです。また、最近、「流行の」コンピュータ・ウィルス対策（駆除）などもしています。

こうした電子・電子工学や情報工学系の仕事は、もちろん学生時代の専門とは違いますし、素養も興味もありませんでした。最初は専門知識も持ち合わせていないのに、導入教育もなく「現場」に放り出されて戸惑うこと、理不尽さを感じることもありました。しかし、最近では、次第に知識もついてきたので、通信の仕組みも理屈で理解できるようになり、障害対応も随分「まし」になり、「エンジニア」の仲間入りかな？ などと喜んでいきます。

7期生の皆さんのことで思い出されるのは、やはり、何かと7期生内で「ごたごた」が多かったことでしょうか。「ごたごた」の内容にはいろいろあったようですが、インゼミの進め方など、けっこう真剣（深刻）なテーマもたくさんあったようで、そうした経済学といった勉強の以外にもいろいろと「議論し合える」雰囲気というのもまたいいものだと思います。そうした友人は貴重な「財産」であると思うので、今後も、大切にしていってください。

最後に、現在、私は滋賀県在住ですので、今年の青竹会には、参加予定です。社会人の先輩の皆様、そして現役ゼミ生の皆さんにお会いできることを楽しみにさせて頂いています。

六期生 丸山 洋平

7期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

研究室での面接で皆さんと出会ってから、はや4年の月日が過ぎようとしています。毎週火曜日の通常ゼミ、春・夏の合宿、そしてインゼミと皆さんと一緒に過ごした日々が懐かしく思い出されます。

通常ゼミにおいても、合宿においても、皆さんの積極的な姿勢がゼミの雰囲気を引き締め、ゼミを進行する立場の私も非常に助かりました。

特にインゼミの時には、悪戦苦闘していた私たち6期生を毎日、研究室で昼夜問わず支えてくれました。皆さんの支えもあって、充実したインゼミにできたと思っています。

私は、まもなく社会人になって1年が経とうとしています。まだまだ手探りで自分の前にあるひとつひとつの課題に取り組んでいる毎日です。そんな忙しい毎日の中で、普段は自分で意識していなくてもゼミでの経験が力になっているような気がします。

皆さんも自分のやってきたことに自信を持ち、そして共にがんばった仲間をこれからも大切にして、それぞれの道でがんばってください。

皆さんの今後のご活躍をお祈りします。

最後に、ゼミ長として7期生をひっぱり、忙しい中この機関紙を編集してくれた藤中君、ご苦労様でした。

六期生 偷伽 篤志 (東海旅客鉄道株式会社)

ゼミ機関紙に寄せて

最初に、七期生の皆さんご卒業おめでとうございます。七期生の皆さんが卒業されるということは、自分が大学を卒業し社会人として働きだしてから一年が経ったということでもあるんですね。時間が過ぎるのは本当に早いもので、岩本先生の研究室でインゼミのための勉強に悪戦苦闘していた日々が懐かしく思い出されます。

さて、私は今新幹線運転士として見習乗務をしている真っ最中で、これまでの車掌、駅勤務も含めて現場での仕事が今年の九月まで続くこととなります。当社は社会一般に言われているように、東京～大阪間を結ぶドル箱路線を有する独占企業のようなものです。しかし昨今の航空業界における規制緩和により当社エリアにおける相当な値下げ攻勢が行われた結果、東京～大阪間の航空のシェアは確実に伸びております。現在は当社もそのシェアを奪い返すことに躍起になっているかのごとく、様々な施策を打ち出しています。

そのような動きの中でどの職場でも常に言われていることなのですが、これからの社会で必要とされることは「自分で問題点を発見してそれを解決していく能力」と「一度取り組んだらあきらめないで最後までやり遂げる忍耐力」であるということです。みなさんはインゼミ等を通じ、比較的自由にやりたいことをやらせてもらえる岩本ゼミで勉強されてきたのですから、そういった能力も十分に養われたのではないかと思います。今後はぜひその力を十分に発揮して社会人としてがんばっていただきたいと思っています。また就職以外の道を進まれる方、そして現在も岩本ゼミ生として勉強に励んでおられるみなさんにも勉強だけでなく遊びも含めてたくさんの経験をしていただきたいと思います。そういったことは話の種としてでも将来必ず役に立つはずですよ。

最後に、機関紙を作るにあたり藤中君をはじめとたくさんの方々ご苦労されたかと思います。本当にお疲れ様でした。今後もこのゼミのつながりを大切にしていって下さい。岩本先生もこれまで以上にご活躍されることを心から願っております。それでは青竹会でみなさんにお会いできることを楽しみにしています。

六期生 吉川 由梨

7期生の皆様へ

7期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

皆さんがもう卒業のときを迎えられるのかと思うと、そして私自身について言えば、卒業からはや1年が過ぎようとしているのかと思うと、ただただ時の流れの速さを感じずにはいられません。皆さんも来たるべき新しい生活を前に、それを実感されているのではないのでしょうか。

私にとって、岩本ゼミは大学生活の核の一つであり、岩本ゼミなくして私の大学生活は語れないくらいに大きな存在でした。インゼミを控え、研究室に缶詰めになっていた日々、岩本先生を囲んでの飲み会、ゼミ合宿・・・すべて良い思い出です。

さて、私はいま人材派遣業界に身を置いています。人材をまったく必要としないところなどまずないため、ビジネスチャンスがどこにでも転がっているという意味でおもしろい業界だと思います。仕事柄、日々本当にたくさんの人と出会います。企業担当者、そして派遣スタッフの方々……。1年間仕事をしてきて思うのは、「本当にいろんな人がいるなあ」ということです。素敵だな、見習いたいと思う人もいれば、他山の石とする場合もあります。この不況で、市場で自分を高く売るためには経験やスキル、資格こそがモノを言うのだという風潮があります。確かにそれはもったもなようにも思えますが、でも結局最後にモノを言うのは人間性です。ヒューマンスキルあってこそテクニカルスキルだということを、これから社会に出て行かれる皆さんの心のどこかに留めておいていただきたいなと思います。

なんて、ちょっと先輩っぽくえらそうに書いてしまいましたが、なんてことはありません。私も模索の日々です。

皆さんが今後ますますご活躍されることを心より祈っています。
また、みんなで集まって楽しく飲みましょう！